

間

新



# 今までの弥彦村は良い村でした

村長いわく、村長就任時「私は村政を担当するに当たり金も権力も名譽も要らない、命さえも惜しくはない。私の思いは、ただ一点、弥彦村を普通の村、良い村、胸を張って後に続く若い人にバトンタッチできる村にすることにあります。」と申し上げました。

「これまで実際に私個

人のため、また一部の村民のために恣意的に行政を執行したこと、村長の立場を個人的に利用したことは一度たりともありません(村長あいさつ文そのまま)とあいさつされましたが、本当にそうでしょうか。

利用して、村長が変わったんだから商工会長も代わるべきだと、強引に対抗者を擁立し、商工会員個々に選挙依頼をやり、結果は村長が推した候補は大差で敗北しました。

その後、行われた村議会議員の補欠選挙では、村長派の議員を増やそうと、定数二人に対し、村長派の候補を二人擁立、

合計四人での選挙となり、村長は平日の公務時間中にもかかわらずその候補と支持者を連れて、家庭訪問・街頭演説等をやっていましたね。

結果は村長の推した二人は落選、十二月定例会でのあいさつの中で言われた、村長の立場を個人的に利用したことは一度たりともありませんといふことに矛盾はありませんか。村長の言ふことと、

ものになっていきます。(今後の弥彦村を心配する村民)

実際のことがあまりにもかけ離れていて、とうてい納得できません。

今まで弥彦村は人口も増え、普通の村、良い村でした。あなたが村長になつてから、村長派、反村長派という言葉を生み出し、ことあるごとに議会と対立し、今では親戚同士・隣組同士でもまともにあいさつもできないほど、暗い村になってしまいました、世間の笑い